水道料金見直しのポイントについて

長野市上下水道局

（１）現行水道料金が継続した場合の今後 50 年間の損益の推移について

○ 損益は、令和 20 年度に赤字に転じ、その後損失が拡大し続ける見込み。

○ 補填財源残高は今後減少し、令和 21 年度には底をつく見込み。

（２）次回料金算定期間までの損益の推移について

○現行料金算定期間（令和４～６年度決算見込）の利益（赤の線）の総額が、前回推計（令和３年度推計）より 3.6 億円増加。

○今回料金算定期間（令和７～10 年度）の利益見込みは 31.2 億円となり、必要となる目標利益額（資産維持費 14.4 億円）を上回っている。

○次回料金算定期間（令和 11～14 年度）の利益見込みは 15.2 億円となり、必要となる目標利益額（資産維持費 15.3 億円）を僅かに下回っている。

（３）まとめ

○現行水道料金で経営し続けた場合、将来的には令和 20 年度に赤字に転落するほか、令和 21 年度には補填財源残高が底をつく見通しであり、定期的に料金を見直す必要がある。

○ただし、今回料金算定期間では、必要となる目標利益額を確保可能な見通しであり、当面は現行水道料金で健全経営を維持することが可能

○補填財源残高（内部留保資金）については令和５年度末で 115 億円あり、現行の水道料金においても、令和 14 年度末で 69 億円と、建設改良費も十分確保できる見込み。また、大規模災害などで収入が減少しても最低限の支払いが可能な水準を維持できる。

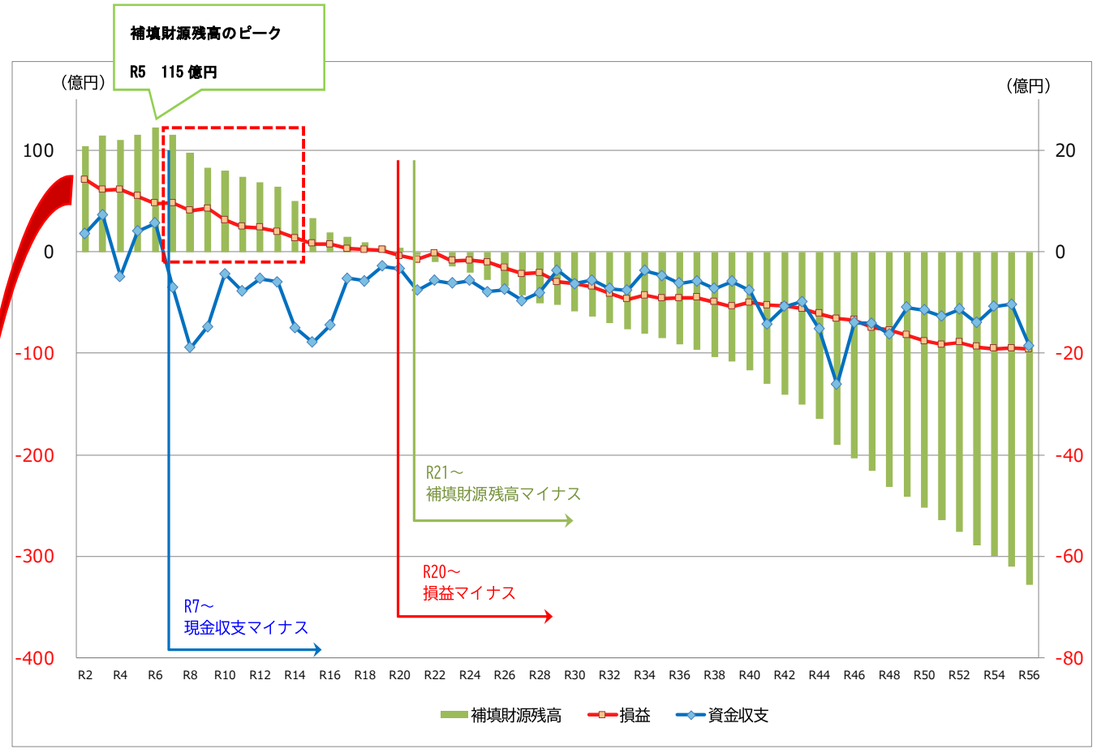
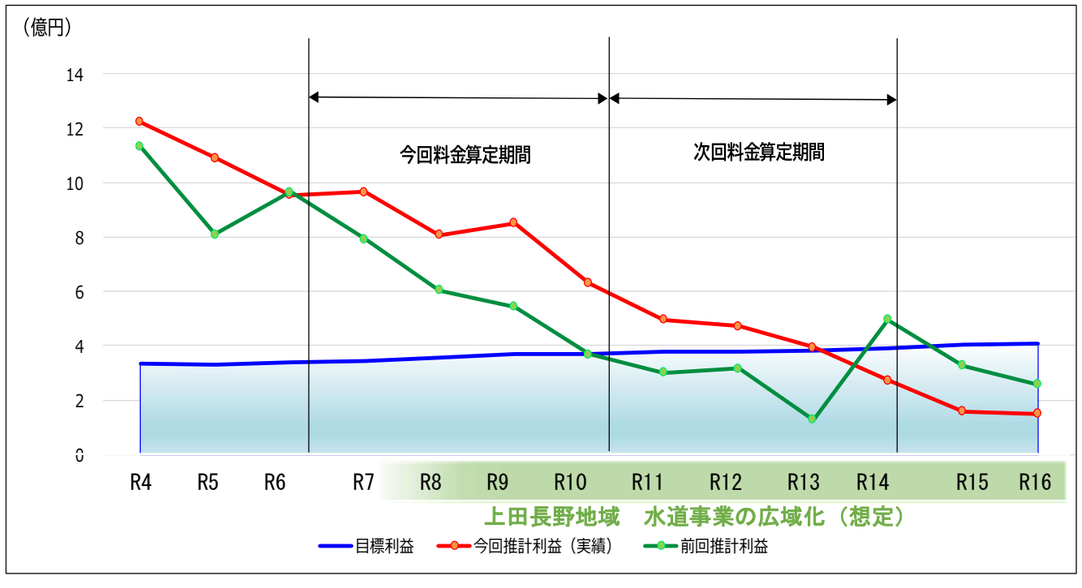
○上田長野地域での水道事業広域化で、事業を統合する企業団を設立すると、水道料金値上げ幅の抑制効果が期待される。

上記により、今回の水道料金見直しについては、料金を据え置くことが可能であると考えます。

水道料金見直しのポイントについて【別紙】

長野市上下水道局

（１）現行水道料金が継続した場合の今後 50 年間の損益の推移について



（２）次回料金算定期間までの損益の推移について